

令和7年度に発生した災害における 防災クロスビュー(bosaiXview)の公開と運用

社会防災領研究域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 佐野 浩彬、長房 駿

Point

- 災害情報をクロスさせて災害全体を見通す「防災クロスビュー(bosaiXview)」
- 災害情報の発信と表現の進化に向けた研究開発を推進
- これらの取り組みを通じて災害情報のさらなる活用や協働関係の構築を目指す

概要

防災クロスビュー : bosaiXviewとは <https://xview.bosai.go.jp/>

防災クロスビュー: bosaiXviewは、SIP4D(基盤的防災情報流通ネットワーク)等により共有された災害対応に必要な情報を集約し、統合的に発信するためのwebサイトです。

平常時は過去の記録や現在の観測、未来の災害リスク、災害時は発生状況、進行状況、復旧状況、関連する過去の災害、二次災害発生リスクなどの災害情報を重ね合わせて(クロスさせて)、災害の全体を見通し(view)、予防・対応・回復の全フェーズに必要な情報が共有できる仕組みを目指しています。また、現在は情報を閲覧できるだけでなく、目的に応じて必要な情報をあらかじめ組み合わせるための表現方法にも取り組んでいます。

令和7年度(令和8年2月時点)は、地震災害2つ、大雨災害1つ、台風災害1つの合計4つの災害で防災クロスビューを開発しました。

防災クロスビューが目指すところ

防災クロスビューは現在、災害情報の発信と表現の進化に向けてさらなる研究開発に取り組んでいます。特に、近年の防災クロスビューに関する取り組みは防災科研だけでなく、災害対応に関わるさまざまな機関や組織、関係者との連携、協働を通じて実現されてきたものも数多くあります。われわれはこうした様々な関係者との連携を通じて、災害情報の発信や表現の進化に関する実践的な取り組み(アクションリサーチ)を重視し、これから起こりうる自然災害に対して備えていくためのさらなる協働関係の構築を進めていきたいと考えています。

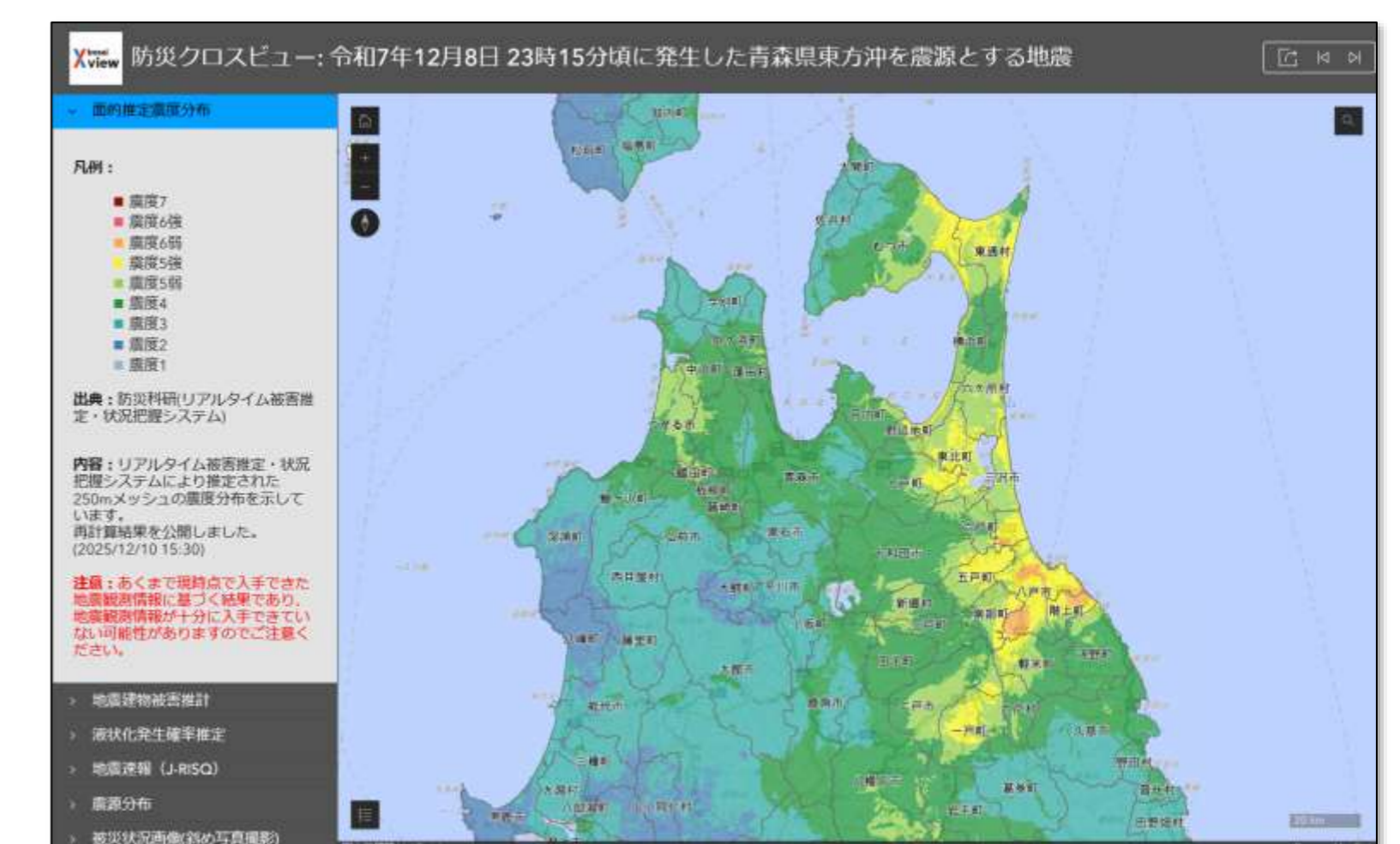
防災クロスビューは今後もさらなる進化を続けていき、これによって災害に強い社会が実現されるためのよりよいものになるよう、災害対応を担う関係機関の皆様と協働しながら、研究開発に取り組んでまいりたいと考えています。



令和7年7月13日トカラ列島近海を震源とする地震の防災クロスビュー
(背景に国土地理院の淡色地図を使用)



令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨の防災クロスビュー
(背景に国土地理院の空中地図を使用、衛星画像はJAXA レーダ衛星ALOS-2より提供)



令和7年12月8日 23時15分頃に発生した青森県東方沖を震源とする地震の防災クロスビュー
(背景に国土地理院の淡色地図を使用)

補足 : 本ポスターに関連する防災クロスビューの取り組み概要に関しては、「防災科研ニュース 2025年No.231 特集 : SIP4D Next Stage -災害対応力最大化への挑戦-」(<https://www.bosai.go.jp/information/news/pdf/k-news231.pdf>) もご覧ください。

